

2025 高根中学校 学校だより

北杜市立高根中学校
学校だより NO.15
令和8年 3月13日

輝・相寄りて

学校長 秋山 俊哉

祝 第68回 卒業証書授与式 85名の卒業生が高根中学校を旅立ちました。



3月11日(水)、北杜市教育委員会教育委員、河手由美香様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、保護者の皆様や在校生が見守る中、令和7年度、第68回、北杜市立高根中学校、卒業証書授与式が挙行されました。

1、2年生にも知ってほしいことですが、卒業生が、手にした卒業証書はとても重みのあるものなのです。創立以来、68年を迎える高根中学校です。今年度の卒業生を含め、これまで8500名以上の卒業生を輩出しています。そして今年の卒業生も、貴重なその一人となりました。

卒業証書というものは、「中学校の課程の修了」と同時に、「義務教育の終了」を表わしています。中学校三年間の「努力の結晶」であるとともに、かけがえのない一人一人の「三年間の成長の証」なのです。

私は、卒業生とは2年間共に過ごしましたが、3年間の成長を遂げた顔を見ると、忘れられないシーンが思い出されます。

「UP～高みへ手をのばして～」というスローガンのもと、数々の場面で本校の歴史に輝かしい足跡を残してくれた生徒会活動。日々の努力を重ね、峡北支部内はもちろん、県内外に高根中の名を響かせた部活動など、そのどれもが学年の枠を超えた、絆を大切に活動であり、一人一人のリーダーシップがひととき輝いた場面でした。

生徒会最大行事のハヶ嶺祭では、準備から本番、片付けまで、全校生徒の先頭に立ち、自分にできることを探し、努力を続けました。一人一人が培ってきた力、あふれるエネルギーに圧倒さ

れると共に、勝敗を超えて認め合い、団結する姿を心に刻んだ行事となりました。また、合唱への取り組みも忘れられません。特に、合唱祭で自分たちの思いを込めて、クラス合唱や学年合唱を歌う姿は、1・2年生にとっては、あこがれであり、目指すべき姿を披露してくれました。



卒業生に対しても、
1,2年生に対しても、
私が語り掛けてきた

ことは、「相寄りて」ということでした。学校での行事や活動は、どれも自分一人の力では、成し遂げることはできません。仲間と「相寄りて」ことで成し遂げられるものばかりです。これからの学校生活、人生においても同じことが言えます。私は、卒業した3年生を中心に、皆さんだからこそ、この伝統ある、高根中学校を前に進めることができたと思っています。これからは、1、2年生が上級生となり、この高根中学校を、今以上によりよい学校に導いてください。

世界では、地球規模で自然現象や社会情勢など、予測できない大きな変化が起こっています。これからの卒業生の人生の中にも、行く手をふさぐたくさんの壁が現れてくると思います。しかし、その壁は、皆さん一人一人が、何かにチャレンジしているからこそ、でてくる壁なのです。

2月に行われた、ミラノ・コルティナ・オリンピックでは、日本選手の活躍にたくさんの感動をもらいました。しかし、選手たちにとっては、言葉では言い表すことができないほどの努力や修練があり、たくさんの壁を乗り越えてきたと思います。

**「壁というのは、超えられる可能性がある人にしかやっこない。
だから僕は、壁があるときは、チャンスだと思っている」**

日本とアメリカで活躍し、数々の記録を残したプロ野球のイチロー選手の言葉です。ピンチのときこそ、自分を大きく育てるチャンスです。みなさんも、高根中学校で育んできた人との関わりや、知識と経験を基に、自分自身を信じ、自分の意志を持って壁を乗り越え、進んでいってけることを期待しています。 （式辞より一部抜粋）

